

調査概要

【調査目的】

60歳以上男女の骨粗鬆症に関する認識、および
臨床内科医における骨粗鬆症の治療の実態を明らかにすること

【調査対象】

60歳以上男女： 男性 200名、女性 200名
医師： 臨床内科医 100名

【調査地域】

全国

【調査方法】

インターネット調査
(調査会社マクロミルに登録されているパネルから、職業、性別、年齢などに基づき、60歳以上
男女および医師の対象者を抽出)

【調査実施日】

60歳以上男女： 2009年9月9日～9月10日
医師： 2009年9月1日～9月3日

主な調査結果

【60歳以上男女】

- ✓ 骨粗鬆症について9割以上が主な症状を理解している
- ✓ 検査を受けたことがない人が6割
- ✓ 検査を受けない理由は「自分を骨粗鬆症とは思わない」、「どこで検査できるかわからない」
- ✓ 一方で、骨粗鬆症の本当の怖さを知った際には、8割以上が検査意向を示す
- ✓ 検査を受ける意向は、「健康診断に組み込まれている」、「検査が簡単である」、「かかりつけ
医の勧め」が影響

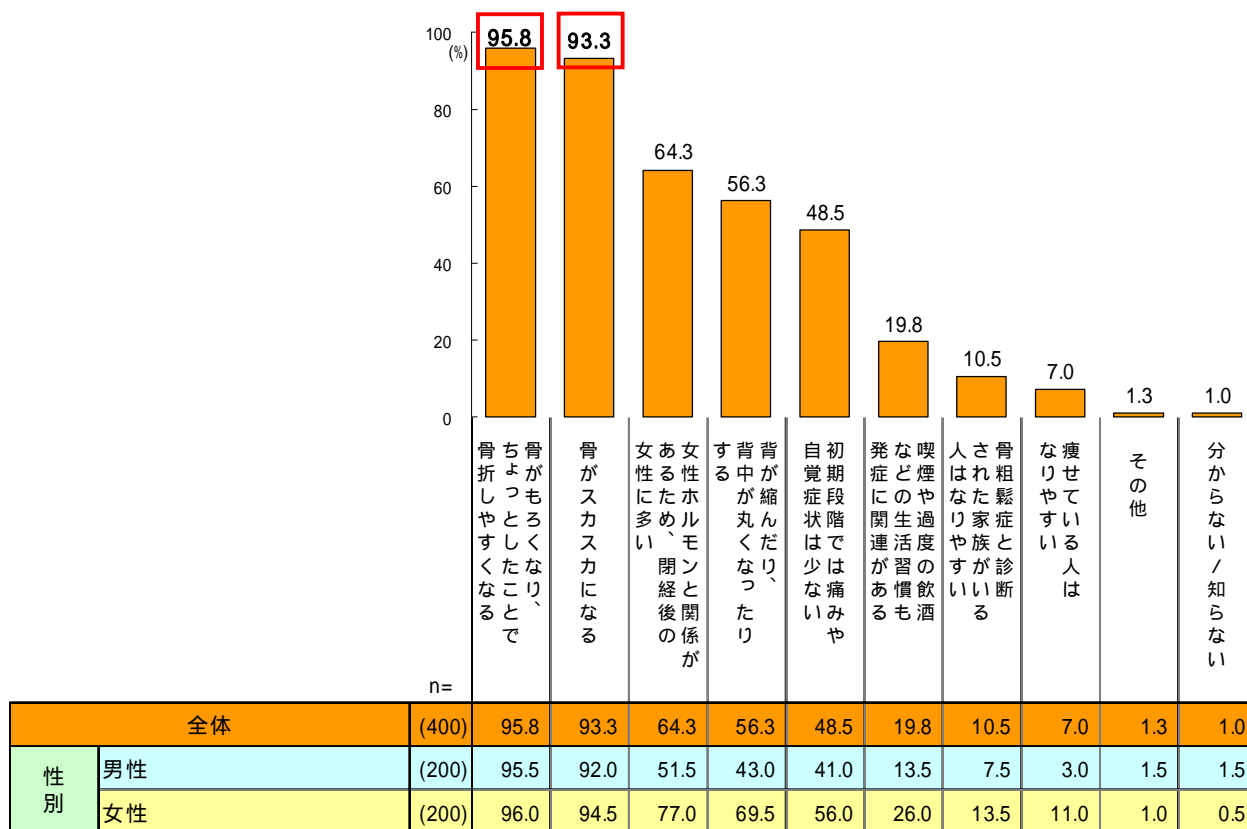
【臨床内科医】

- ✓ 別の疾患で通院している患者に対して、骨粗鬆症を積極的に診察している医師は5%
- ✓ 患者が積極的に受診を希望すれば、6割が積極的に診察する

【60歳以上男女400名への調査結果】

骨粗鬆症について9割以上が主な症状を理解

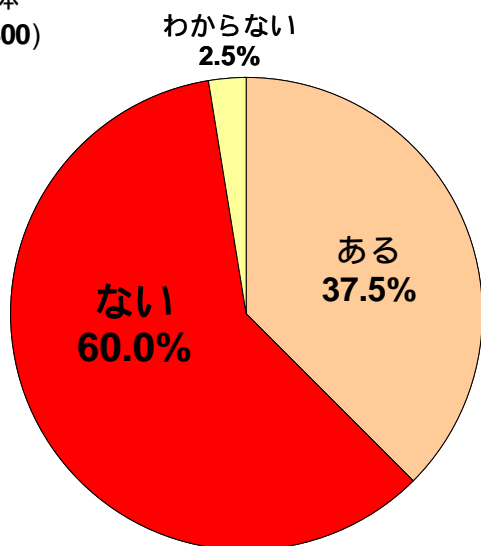
Q. 骨粗鬆症について知っていること。(複数回答可)



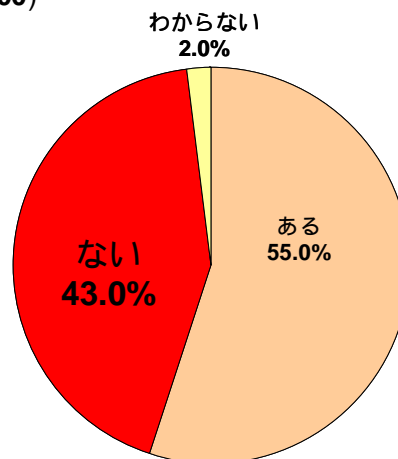
検査を受けたことがない人が6割

Q. 骨粗鬆症の検査を受けたことがあるか。

全体 (n=400)

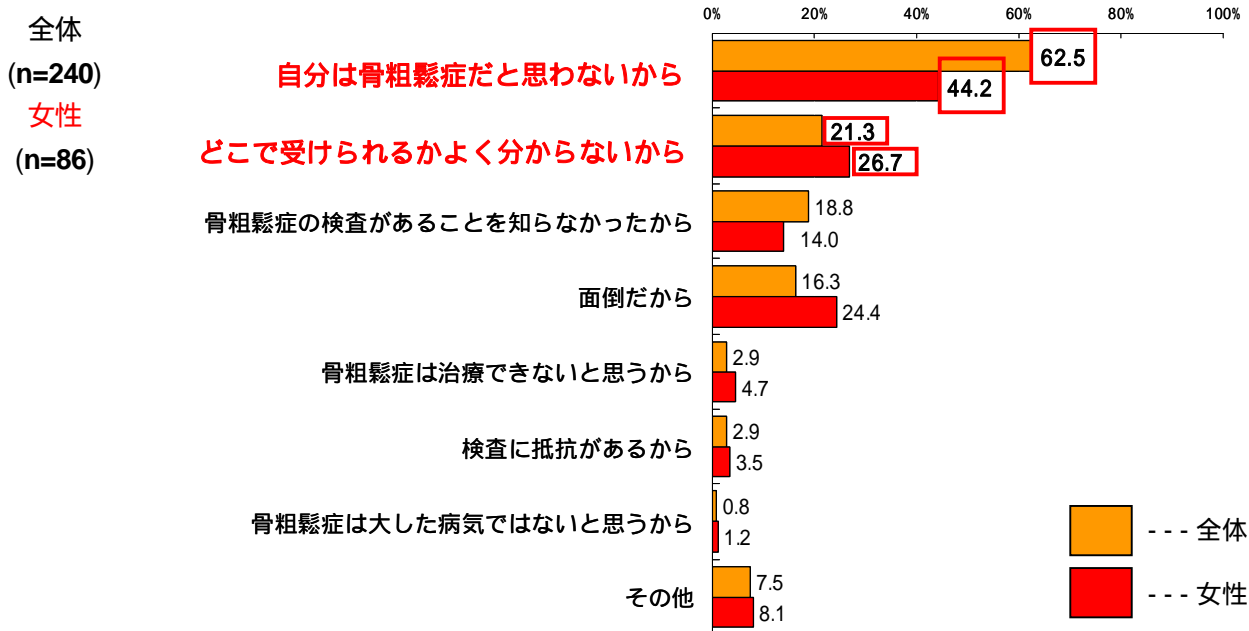


女性 (n=200)



検査を受けない理由は「疑わない」、「場所が分からない」

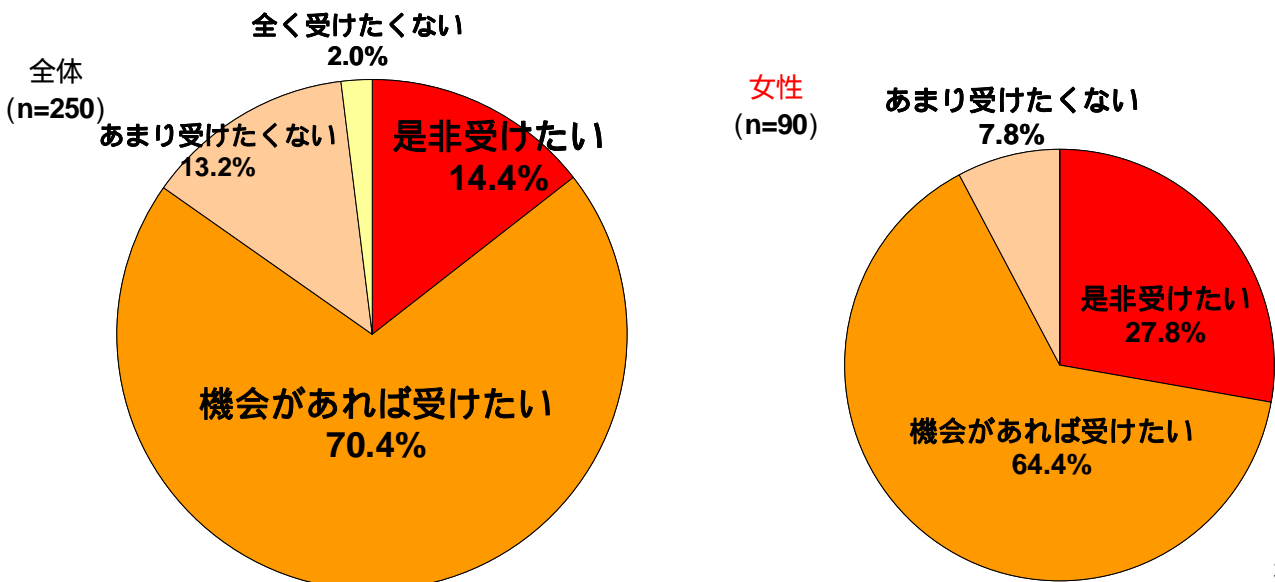
Q. 骨粗鬆症の検査を受けない理由。(複数回答)
 (骨粗鬆症の検査を過去に受けたことがない人のみ回答)



「本当の怖さ」を知ったら検査を受けたい人が8割以上

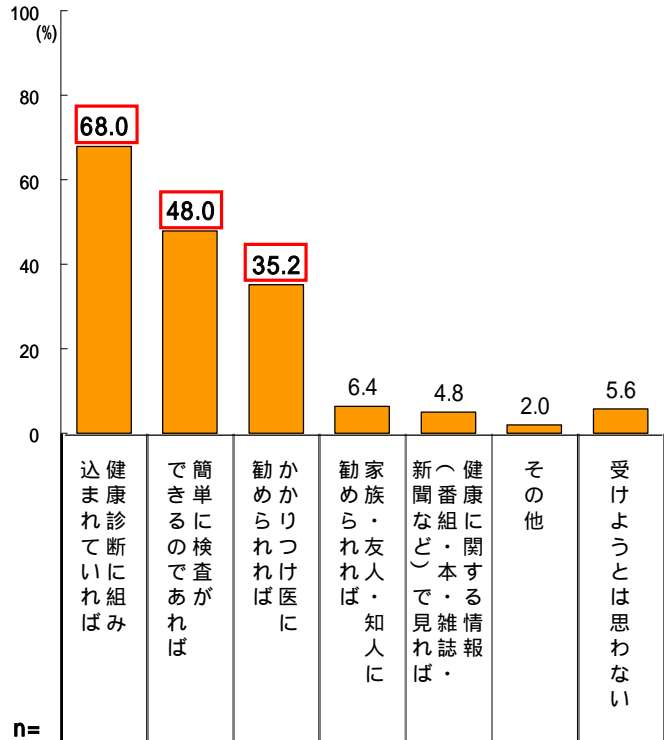
現在、60代の女性の約3人に1人は骨粗鬆症と推定されている。病状が進行するとくしゃみや布団の上げ下ろしなどの日常の動作や転んだ衝撃でも骨折しやすくなる。特に太ももの付け根を骨折すると歩けなくなり、そのまま寝たきりになることもある。

Q. 上記のことを踏まえた上で、骨粗鬆症の検査を受けたいと思うか。
 (骨粗鬆症の検査を過去に受けたことがない、または受けたかわからない人が回答)



検査の意向は健康診断と簡単さと医師の勧め

Q. どのようなきっかけがあれば 骨粗鬆症の検査を受けるか。 (複数回答可)
 (これまで検査を受けたことがない、検査を受けたか分からない人が回答)

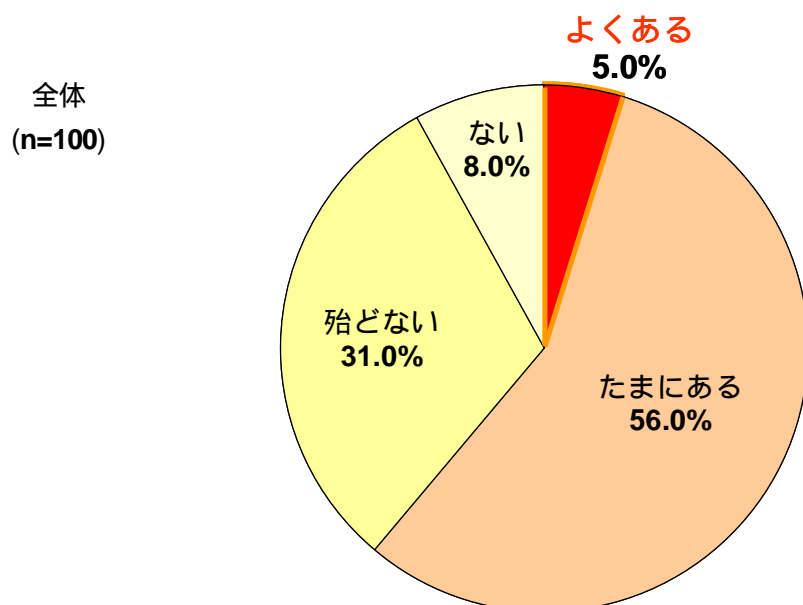


		n=	68.0	48.0	35.2	6.4	4.8	2.0	5.6
全体		(250)	68.0	48.0	35.2	6.4	4.8	2.0	5.6
性別	男性	(160)	72.5	45.6	35.6	7.5	2.5	1.3	5.0
	女性	(90)	60.0	52.2	34.4	4.4	8.9	3.3	6.7

【臨床内科医100名への調査結果】

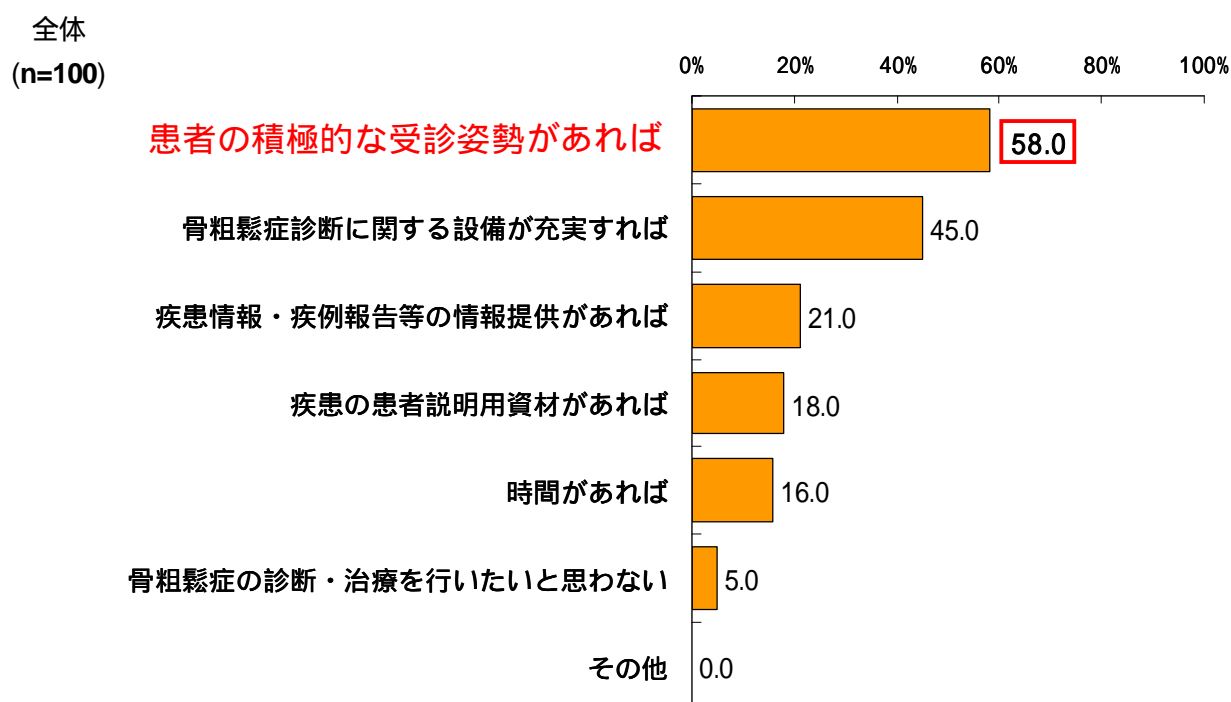
別の疾患で通院している患者に対して、骨粗鬆症を積極的に診察している医師は5%

Q. 骨粗鬆症以外で通院している患者で、骨粗鬆症のハイリスク患者(高齢者、閉経後の女性など)に対して、骨粗鬆症の問診・検査を行なうことはあるか。



「患者の意思」があれば6割が診察

Q. どのような環境が整えば、骨粗鬆症の診断・治療をより積極的に行なうか。(複数回答可)



調査まとめ

【60歳以上男女】

- ✓ 9割以上が骨粗鬆症の主な症状を理解している反面、自分に関係するという意識は低く、6割以上が検査経験がない
- ✓ 「自分は骨粗鬆症だと思わない」と「受診可能機関の認知不足」が検査を受けない2大理由
- ✓ 一方、骨粗鬆症が骨折、寝たきりに繋がるなどのリスクを知った際には8割以上が「検査を受けたい」と回答
- ✓ 検査の意向は、「かかりつけ医の勧め」や、健康診断に組み込まれる、検査の簡便化が図られるなどの「気軽さ」で高まる

【臨床内科医】

- ✓ 別の疾患で通院している患者に対して骨粗鬆症を積極的に診察している医師は5%と少ないものの、「患者の積極的な受診姿勢」があれば診察を積極的に行いたいと考える医師が6割